

## Desert Wind

(No.24 11月号)

LVJCC 牧師: 鶴田健次

## 『喜びの処方箋』(ピリピ4:4-7)

「喜ばば 喜び事が 喜んで 喜びつれて 喜びに来る」という格言がありますが、いつも喜んでる人の所には、喜びが他の喜びを連れてやって来るものです。しかし、それとは反対に、いつも愚痴を言う人の所には、不平不満が他の不平不満を連れてやって来ます。皆さんは、そんな法則があることをご存知でしょうか。

喜びと愚痴というのは、決して同時にその人の中にとどまることはありません。喜びのある人の心に愚痴がとどまることはできず、愚痴を言う人の心に喜びがとどまることはできません。喜びのある人生はますます喜びに満たされ、愚痴の多い人生は不平不満から開放されることがありません。ですから、幸せな人生には、喜ぶということが不可欠な要素です。

ところが、『喜び』と一言で言っても、喜びにも色々な喜びがあります。オリンピックで金メダルを貰うことも大きな喜びです。学生なら優秀な大学に入ること、また卒業して一流企業に就職することも大きな喜びです。しかし、こういう喜びは、自分だけの喜び、また限定された喜びで、同時に、メダルを取れなければ悔しい、入りたい大学に入れなければ、また気に入った会社に就職できなければ悲しいという、条件付きの喜びに過ぎません。

それに対して、聖書は、『あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい』と書いています。この『いつも喜ぶ』ということは決して簡単なことではなく、『主にあって喜ぶ』ということが『いつも喜ぶ』ことの鍵です。この『主にあって』という言葉は、『主を信じて』ということです。つまり、どういう現実の中にあっても、神の導きは最善であるという神の約束を信じて、喜びなさいということです。

この喜びが、本物の喜びであり、いつまでも変わることはない普遍的な喜びです。それは、自分だけの喜び、また条件付きの喜びではありません。それは、メダルを取れない中

も存在する喜び、希望する大学に入れなくても、希望する会社に就職できなくても失われぬ喜び、つまり涙の中にも、苦難の中にも、どんな状況の中でも変わらない普遍的な喜びなのです。

讃美歌作者として有名なファニー・クロスビーは、95歳で天に召されるまでに9000もの讃美歌の詩を書いた偉大な讃美歌作者です。彼女は一歳のとき父親を亡くし、母親に育てられるのですが、彼女がまだ生まれて6週間にしかならない時、医者への不注意な過失によって目が完全に見えなくなってしまいます。こんな悲劇は、誰にとっても、人生に行き詰まりを覚えさせる辛い出来事ですが、驚いたことに、彼女にとっては別でした。彼女は、後になって、自伝の中にこう書いています。『私が、一生涯、盲目であるという事は、祝福に満ちた神様の摂理であり、私はその事を天からの贈り物として神様に感謝します。』

彼女を盲目にさせた医者は自分を赦すことができず、また自分のした事と向き合う事も出来ず、その町からいなくなってしまいました。しかし彼女はその自伝の中で、こう書いています。『もし今、私が彼に会うことが出来たら伝えたいのです。私の目を見えなくしたことで自分を責めないで下さい。あなたにとっては失敗だったかもしれませんが、でも神様にとって失敗はありません。私が肉体的に暗やみの中で生涯を暮らすことは神の御旨だと私は信じています。見えない事を通して多くのものを見ることができ、神様への讃美を歌い、他の人々を励ますことが出来る者とされたのですから。私は世界中で一番幸せな者だと思います。ですから、私はあなたに、私の目が見えなくなるようにして下さいと有難うと、心から言いたいです。』

この盲目を多くの人は「呪い」と考えるかも知れません。しかし本人はそれを神からの贈り物と考え、神に感謝しました。だからこそ彼女は、これだけの讃美歌を書いて、世界中の人々を励ますことが出来たのです。感謝をして喜ばば、喜び事がやって来るのです。

## DREAMS COME TRUE

- ☞ 教会堂の建設
- ☞ 敬老ホームの設立
- ☞ 幼稚園の設立

## お祈りのリクエスト

新井雅之兄の脳内出血の後遺症のためのリハビリと、癌の治療のために、またすべての必要がみ満たされるように。  
Allan Whitworth 兄が肺炎を患っておられます。主の癒しをお祈り下さい。

日本の家族のために。  
英語部の働きのために(英語部の働き人、ユースワーカー)

松岡みどり姉のお母様の健康。

入門者クラスの方々のために(由季姉、明日歌姉、早希姉)

.....

Desert Wind では 1400 字程度のお証、また質問を募集しています。意見・質問等何でもどうぞ。

lvjccnews@hotmail.com

編集: 真子ガーディナー  
松岡みどり

平山未樹

## 南加クリスチャンリトリート参加報告

7月28日から3日間、カリフォルニア州マリエタにあるカルバリーチャペル コンフェレンスセンターにて、第12回南加クリスチャンリトリートが行われました。

今回のテーマとなる聖句は、『サムエル記1:3:9』  
『主よ。お話し下さい。しもべは聞いております。』

ラスベガス日本人教会からは10名参加しました。今回、私は、薫姉と明日歌姉と共に出発。約5時間(途中ランチ休憩あり)のドライブの後、マリエタ到着。会場は敷地も広く、鴨や白鳥がいる池があり、そして、私達日本人としては大変嬉しい温泉付き。初めて参加した時には、3食だけでは足りないかも、と思いましたが、食事はある食いしん坊の姉妹が太鼓判を押すほどたっぷりあります。

チェックインをした後に、今回のメイン講師である中野雄一郎先生による講義があり、メッセージの内容は「クリスチャンの危機」。私達は、クリスチャンとして本当に神体験しますか?という内容。捨てなければいけないもの、手放せと言われてるもの、そういうことも語られました。ラスベガスから来た10名で講義のあとに、学んだこと、同じメッセージではあるけれど、それぞれに響いた内容は違う、そんなことを皆で語りあい、祈りました。その後は、夜の温泉に行き、ゆったり温泉につかり、星を見ながら語りを楽しみました。

2日目は、朝7時から朝のデポーションに出席。朝のデポーションタイムは、鍵和田哲男先生による「御言葉を聞くのに障害になるもの」。パンチのあるメッセージに朝から力を受けました。そして、朝食後には、特別講師の日本から来られた中島先生による「あなたの神は生きておられますか?」。聖書を紙として、神としてないのでは? そんな先生の証し、体験談を交えたメッセージでした。ご自身を通してこられた病気との闘いを通して、神様に示されたこと。そして、神様から受けた恵み、沢山のことをシェアして下さいました。

午後はグループに分かれて、分科会に参加。私が参

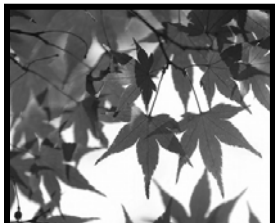
加したのは相原先生の「信仰を持つには」。こちらは本来まだイエスキリストを信じていない人対象だったので、私は勘違いをして「揺れ動かない信仰が欲しい」と思っていたので、この分科会に参加しました。それでも、神を信じるには、という内容を学ぶことが出来、これからのまだ知らない人に伝えるのにはいい講義だったと思います。鶴田先生は「弟子訓練パート2」など、各教会から参加されている先生達がそれぞれのテーマを持って、分科会を行っていました。こちらは参加申し込み時に、どれに参加したいか希望を記入出来ます。そして、夜は中野先生の講義「福音の献身と献金」。惜しみなく捧げる、というメッセージの後は、JTJ 神学校校長の岸先生の飛び入り参加で、2名の方の按手礼が執り行われました。夜はまた温泉を楽しみました。

3日目も、朝のデポーションタイムから始まる。鍵和田先生による「御言葉を聞くのに障害になるもの」。その後は、デュオタカセによるコンサート。過去にも私たちの教会に何度も足を運んでくださり、コンサートをして下さいましたが、今回は何か、バイオリンを弾く真理先生が、とても聖霊に満たされて、いつも感動ですが、今回は特に何か違うものを感じたコンサートでした。その後、ランチを取り、解散。

今回も沢山の出会いがありました。何人かの方とは今でも連絡を取り合っています。参加したそれぞれに響いたメッセージは違っても、そのことがこのリトリート会場だけで聞いて「よかったね」で終わるのではなく、ラスベガスに戻ってからも、私達がイエスキリストに似た者として変えられていく聖化の歩みへの一部となるのが大事だと思いました。メッセージを聞いた時には「よし、捧げるぞ」と思ったのに、帰ってきて疲れを覚えて「ああ、面倒だな」と思った時に、犠牲を払うことの大きさを覚えました。「言うは易し、行うは難し」、その自分の姿をまた見て、悔い改めさせられました。あの時の決心は、疲れ、という自分のコンディションですぐ崩れたのです。

常にまたキリストの歩んできた道を思い出し、いつも神様に立ち返ることが出来る、そして、この大きな霊の糧を頂けるリトリートに参加できたこと、感謝します。来年もまた多くの方が参加し、温泉つきのリゾート気分の会場で、素晴らしい御言葉を聞いて、体と霊のリトリートが出来ますように。

平山未樹



## 今月の編集室

皆様こんにちは。今月から平山未樹姉に代わり、真子ガーディナーと松岡みどりが本誌の編集を担当します。宜しくお願い致します。

さて、長い間大きな会堂のある教会が与えられるように祈り続けてきて、とうとう神様は私たちに素晴らしい場所を与えて下さいました。1-15のシルバード出口から約1分、車では非常に便利なところ。広さは今までの2倍あります。主の備えを心から感謝。

11月16日には新会堂で初の礼拝、翌週は感謝祭礼拝で由季マイヤー姉妹の洗礼式が執り行なわれます。12月にはハーブのコンサートも予定され、クリスマス礼拝も新会堂です。恵みの上に更に恵みを下さる主。『天よ、歌え、主がこの事をなされたから。』ハレルヤ、ハレルヤ、ハレルヤ!

